

感覚運動段階 の 言語指導プログラム

二語文へつなげる指導と教材・教具

このスライドの構成

1. 言語発達段階と感覚運動段階
2. 二語文とは
3. 言語指導の基本的手続き
4. 言語指導に使える教材・教具
5. 指導内容例
 - ことばの理解
 - ことばの表出
6. 事例

言語発達段階 (一部)

段階	0 から 1 ヶ月	不快なときに本能的に泣く 反射の使用
段階	1 から 4 ヶ月	快・不快で異なる声を出す 第一次循環反応
段階	4 から 8 ヶ月	大人の注意を引くために声を出す 第二次循環反応
段階	8 から 12 ヶ月	声を模倣する 二つぐらいの語彙を持つ 第二次循環反応の 協応
段階	12 から 18 ヶ月	一語文で要求する 絵を見て名前を言う 第三次循環反応
段階	18 から 24 ヶ月	動詞、形容詞を使う 二語文を使う 表象と見通し

二語文とは

- 二語文とは

「パパ、イタ」「ブーブ、ノル」など、2語で構成される

- 一語文から二語文の過程

一語文 (身振り) + 身振り 身振り + 単語) 二語文
(指さし)

- 文法獲得の最初の現れ

単語の選択、組み合わせ方、順序などの法則理解

- 単語同士の組み合わせ

「表象と見通し」: 認知能力の質的变化・世界観の広がり

二語文の結合構造

- 主格 + 述語動詞: コレ、アッタ
- 位格 + 述語動詞: ブーブ(ニ)、ノル
- 具格 + 述語動詞: ハシ(デ)、タベル
- 与格 + 述語動詞: ママ(ニ)、アゲル
- 主格 + 述語形容詞: バス、オオキイ
- 連用修飾語 + 述語形容詞: パパ(ト)、オナジ
- 主格 + 述語体言: コレ、キューピー
- 主格 + 位格: デンワ、ココ
- 連用修飾語 + 体言: アカイ、コップ

言語指導の基本的な考え方 (ことばの理解)

1. 教えたいものや活動を一緒に見つめる

教材を提示し「ほら、だね」と声をかける

2. 一緒に活動する

大人の一つ一つの行動をまねて、習得する

3. 活動を繰り返す

パターンを覚えることで、活動の知識を取得する

4. ごっこ遊びを楽しむ

役割、役割交代、相手の理解

活動について知り、その活動に必要なことばを理解する

学校生活の中で 繰り返し行われる活動の例

- あさの会、かえりの会
- 給食、掃除
- 作業学習
- 生活単元学習：買い物、調理
- 制作活動：図工
- 自由遊び
 - ゼンマイ仕掛けのおもちゃ、ボール、積み木

繰り返される活動の中で、適切なことばを教える

言語指導の基本的な考え方 (ことばの表出)

1. 要求することを教える まずは要求行動

2. 指導にふさわしい場を設定する

言語使用にふさわしい場、文脈、シナリオ

3. 自発性を高める工夫をする

「ことばを話したい」という意欲、動機付けを高めること

4. 子どもの反応にはすぐに応じる

5. うまくいかないときには援助する

シェイピング: ミ ミカ ミカン
リキャスト: 「ミ」 「そう、ミカンだね」

言語指導に使える教材・教具

- 教材
 - 教育目標の内容である概念や法則を子どもたちの学習しやすいように加工した事実や現象
- 教具
 - 「教材」の物的手段のすべて
- 言語指導における教材・教具
 - 生活すべてが教材
 - 身の回りのものすべてが教具

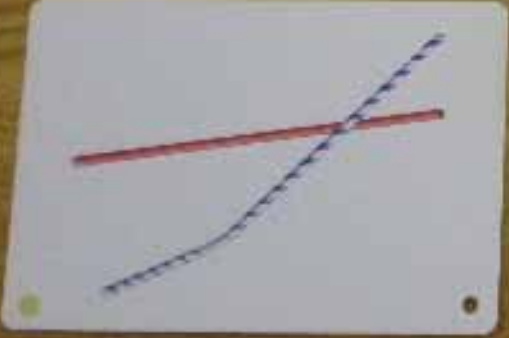
生活の中で、生活に必要なものを使って、ことばを育てる

言語指導に使えるカード

- 乗り物、身近なものの絵カード
- 二語文の指導に使えるカード
- 市販の教材から作った自作カード
- ひらがなカード
- 貼れる自作カード

市販されているカードを見てみましょう！







二語文指導に使えるカード



二語文指導に使えるカード







はく。

ぬる。

いく。

ほえる。

しめる。



言語指導に使えるカード

- 乗り物、身近なものの絵カード
- 二語文の指導に使えるカード
- 市販の教材から作った自作カード
- ひらがなカード
- 貼れる自作カード

言語指導にふさわしいカードの条件とは？

語彙、色、大きさ？

ラミネートなどの加工

発達段階 の言語指導の実際

ことばの理解

1. 日用品の用途を知る
2. 大小を理解する
 - 主格 + 述語形容詞
3. 色を理解する
 - 主格 + 述語形容詞
4. 依頼を理解し、実行する
5. 周囲の人の名前、特性を理解する
 - 主格 + 述語体言

発達段階 の言語指導の実際

ことばの表出

1. 「コレ、ナアニ」と質問する
2. 動作を表すことばを使う: 位格 + 述語動詞
3. 人の状態を表す: 主格 + 述語動詞
4. 二語文で否定する
5. 二語文で要求する
6. 二語文で叙述する: 具格 + 述語動詞

事例2

指導内容例

ことばの理解

理解 1

日用品の用途について、 簡単な指示に応える



理解 1

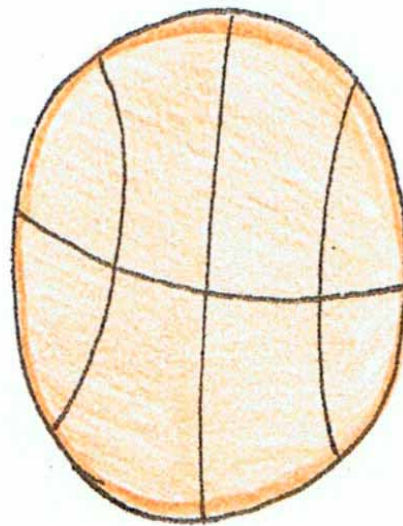
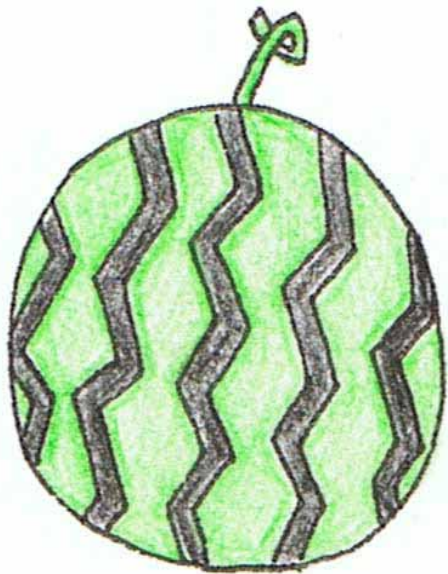
日用品の用途について、 簡単な指示に応える

- 教材：日常生活
- 手続き
 - 食事や入浴などの日常生活場面で、「コップで水を飲みましょう」と声をかける
 - ご飯を食べている絵、ベッドで寝ている絵などを見せ、「ご飯食べているのはどれ？」と聞く
 - 「ご飯を食べましょう」と言って、その動作をさせる
 - 茶碗やコップなどの日用品の絵を見せ、「水を飲むのはどれ？」のように質問する

理解2

大きい、小さいを理解する

主格 + 述語形容詞



理解2

大きい、小さいを理解する 主格 + 述語形容詞

● 実践例

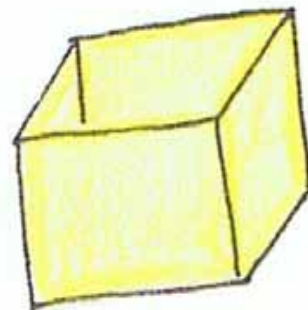
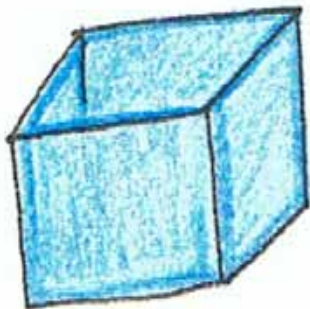
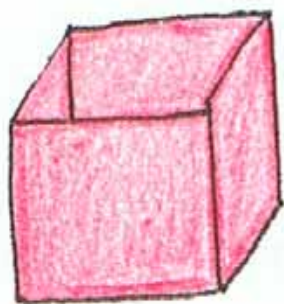
- 日常生活の中で、「大きいスイカ」「小さいトマト」など、大きさを意識させる
- 「お父さんの手、大きい」「　　ちゃん、小さい」のように、大人と子どもを比較して、大小を知らせる
- 大きなボールと小さなボールを準備し、「大きいボールちょうだい」などと選択させる

● 留意点

- 最初は、極端に大きさの違うものを使う
- 身振り動作で、大きさを意識させる

理解3

赤、青、黄など色を理解する



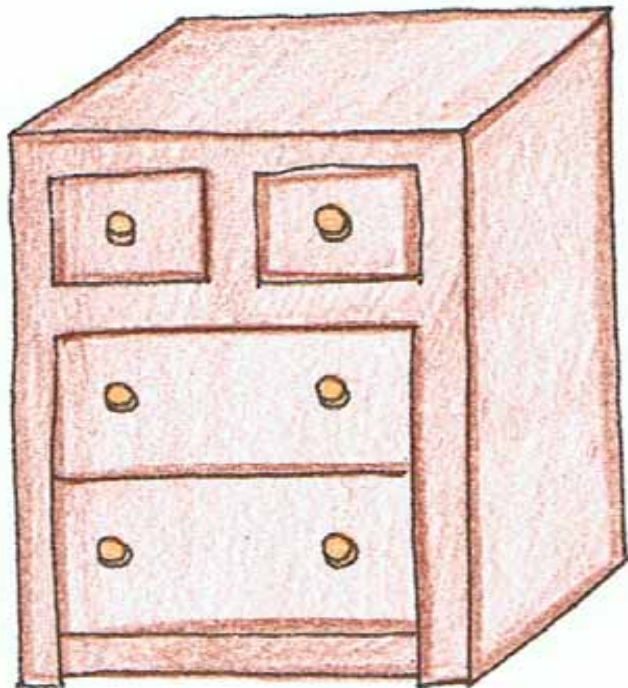
理解3

赤、青、黄など色を理解する

- 教材：ボール、おはじき、積み木など手軽なおもちゃ3色、3色の箱
- 手続き
 - 3色のボールなどを用意し、同じ色の箱に入れさせる
 - 「赤いボールちょうだい」と言って、赤いボールを手渡しさせる
 - 3色を一緒にして、同じように試みる
- 他にも
 - 食事、散歩、衣服の着脱時に、「赤いトマト」のように話しかけ、意識づける

理解4

大人の指示に従う



理解4

大人の指示に従う

- 教材：洋服ダンス(衣服)、食器棚(食器)
- 手続き
 - 洋服ダンスの引き出しを明けておき、「靴下とって」と言って、取り出させる
 - 食器棚の前に行き、「スプーンとって」と言って取り出させる
 - 毎日実施して、簡単なお手伝いにつなげる

理解5

周囲の人の名前や特性の理解

主格 + 述語体言



理解5

周囲の人の名前や特性の理解

主格 + 述語体言

- 教材：身内の写真、身近なキャラクターの絵カードなど
- 手続き
 - 身内の人が集まったとき、「おじいさん」と名前を呼んで手をあげてもらう
 - 「　　は男」「　　は女」などのようにいながら、写真を分ける
 - キャラクターの絵カードでも同じようにやってみる（別の特性でもやってみる）

指導内容例

ことばの表出

表出1

「これ、なあに？」と質問する

- 教材：めずらしいおもちゃ・隠すもの、懐中電灯
- 手続き
 - 子どもが見たことがないおもちゃ、あるいはおもちゃの一部を見せ、「これ、なあに」の発語を誘う
 - 影絵遊びをする。いろいろな手の形を見せ、発語を誘う
 - ある程度答えられたら、正解を教える

表出2

位格 + 述語動詞

「そと(に)、行く」

- 日常場面で、「そとに行く」などのことばを使う
 - 行く、来る、入る、乗る、言う、食べる、見る、きる、履く、脱ぐ、洗うなど
 - これから行う動作のふりをし、「 ちゃんも行く? 」のように言って発語を促す
- 留意点
 - はじめは一緒に同じ動作をし、動作を表すことばをまねさせ、一致できるようにする

表出3

主格 + 述語動詞 「ぱぱ(が)、たべる」



表出3

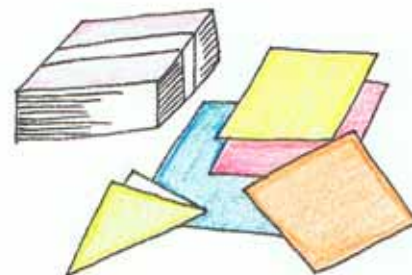
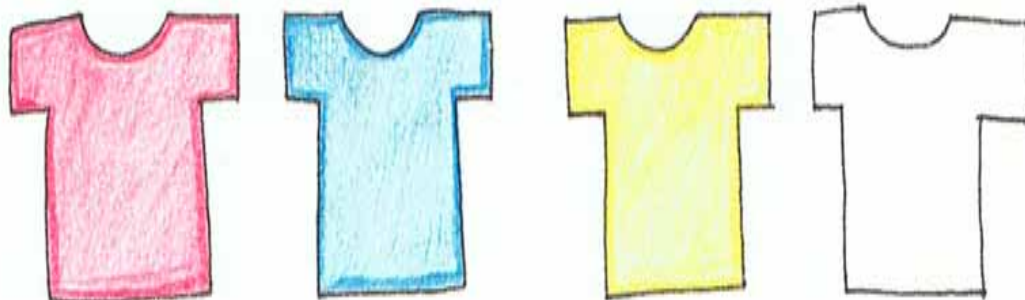
主格 + 述語動詞

「ぱぱ(が)、たべる」

- 教材：複数のキャラクターが、複数の動作をしている絵カード
 - アンパンマンが飛ぶ、走る、食べる、笑うなど
- 手続き
 - 絵カードを伏せて、順番に見せる
 - 絵カードに描かれたキャラクターの様子を言わせる
- 応用
 - マジックつきの絵カードを貼り、キャラクターの様子を言わせる

表出4

要求と否定のことばを使う 主格 + 述語動詞



要求と否定のことばを使う 主格 + 述語動詞

- 教材：赤・青・黄のシャツ、シャツの台紙、色紙
- 手続き
 - 台紙を渡す
 - 赤、青、黄のシャツの一つを提示し、「何色が欲しい」と聞く
 - 「あか、ほしい」
 - 要求した色と違う色を渡す
 - 「みどり、いらぬい」

表出5

二語文で要求する

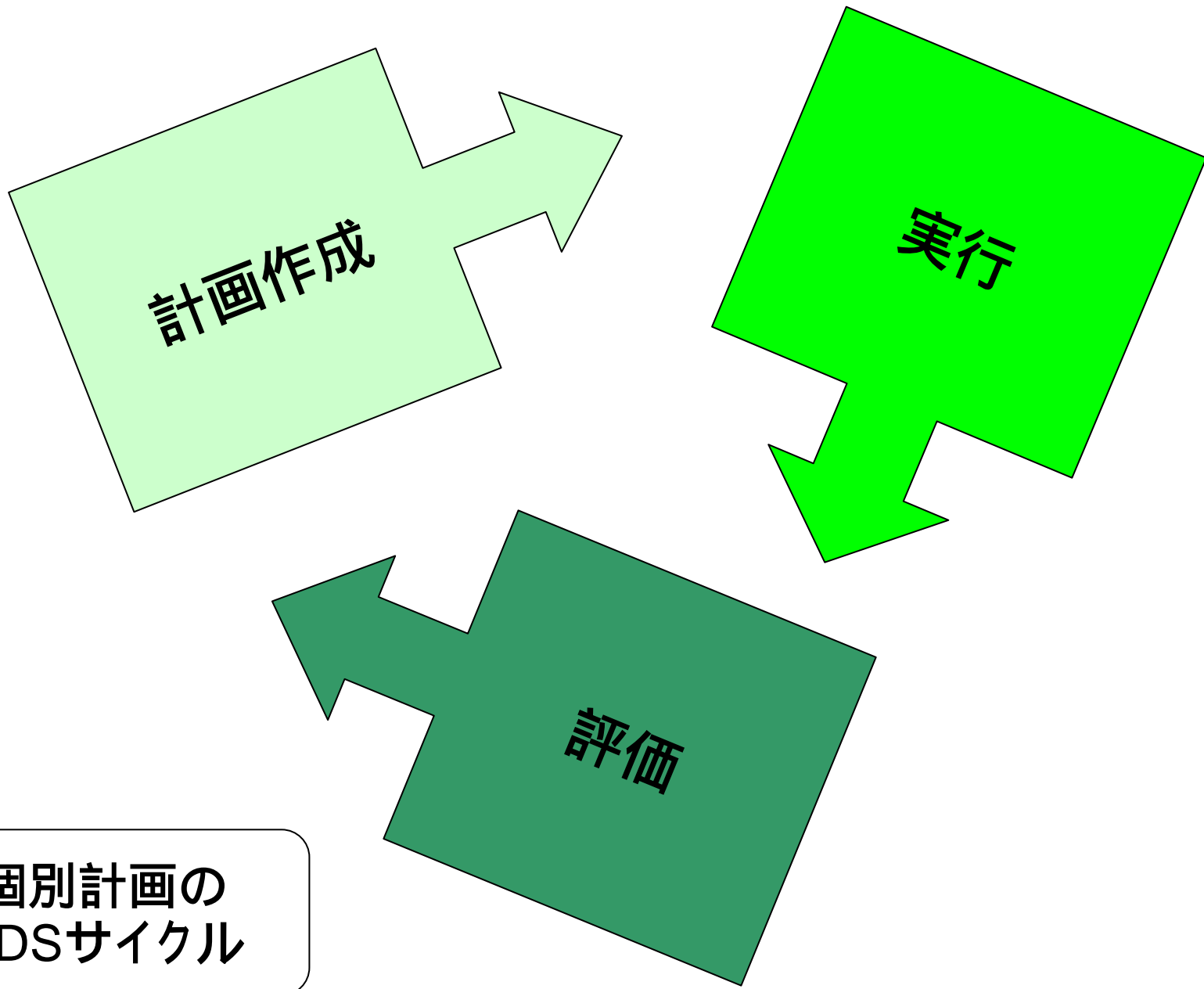
- 設定：大きなカブ(劇)



二語文で要求する

- 設定：大きなカブ(劇)
- 教材：大きなカブ、役柄を示す帽子など
- 手続き
 - 大人がカブを引く動作をする
 - 「 さん、来て」と、呼ぶ
 - それぞれのキャラクターが順番に「 さん、来て」と呼んで、一緒に引く動作をする
 - 最後にカブが抜けて終了

記録と評価



個別計画の
PDSサイクル

個別の指導計画

目 標	方 法	場所・時間	人
・「パパ、おはよう」という	・母親が、「パパ、おはよう」とモデルを示す	居間・起床時	両親
・「しんぶん、とつて」に従う	・身振りで玄関を指示する	朝食時	父
・「ようちえん、いく」という	・幼稚園バッグを見せ、外に出る動作をする	玄関	母

目標、方法、場所、担当者をしっかりきめること

記録や評価の手段

- できごと、行動を記述する
- チェックリスト
- テスト、検査
- ビデオ：同じ場面を録画
- 評定尺度法
- 自己記録、評価

主観的記録
(通常の記録)

発達検査
社会生活能力検査
学力検査

5：とても良い
4：良い
3：ふつう
2：悪い
1：とても悪い

自分で記録、評価

無理なく続けられる手段で必ず記録
指導前と指導後で比較すると変化がわかる

記録の様式(例)

設定	教材教具	働きかけ	反応	対応
お散歩	靴の絵 カード	大人が歩 く動作を してみせ る	「オソト」 と言う	「ソト、イ ク？」と言 語プロン プト

子どもの成長と、指導の成果が
すぐに確認できる記録を心がける

事例 1

二語文で要求する

子どもの実態(A)

- 知的障害特別支援学校小学部3年生(男)
- 高機能自閉症
- 言語理解:1歳3ヶ月、表出2歳
- 身の回りのものの名前はほとんどわかり、一語文で要求する
- 要求は自己充足できるため、自発的に要求することはほとんどなかった
- 理解できない指示にはエコラリアが見られた

方法

- 設定：自由遊びの時間。Aの好きなボールやクレヨンなどを手の届かない棚におく
- 手続き(1)
 - － Aが二語文で要求したとき、要求したものを与え、遊ぶことを認める
 - － 一語文のときはモデルを示し、模倣を促す
- 手続き(2)
 - － 要求したものとことなるものを与え、「違います」「　　ください」の発語をさそう

結果

- はじめは指導者の近くで黙っていることが多かったが、モデリングにより、次第に二語文で要求できるようになった
- 要求とことなるものを渡されたとき、欲しいものの名前を繰り返したが、「ちがいます」のモデリングにより、「ちがいます」を言ってから再度要求するようになった
- 家庭でも、二語文で要求できるようになった

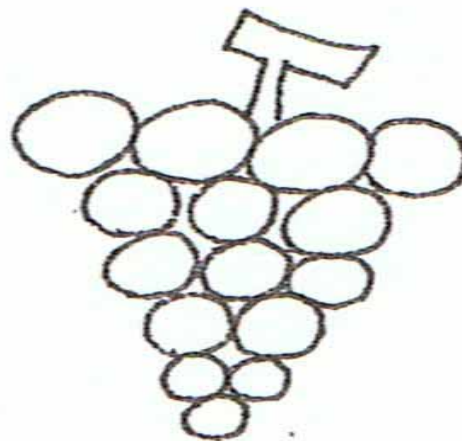
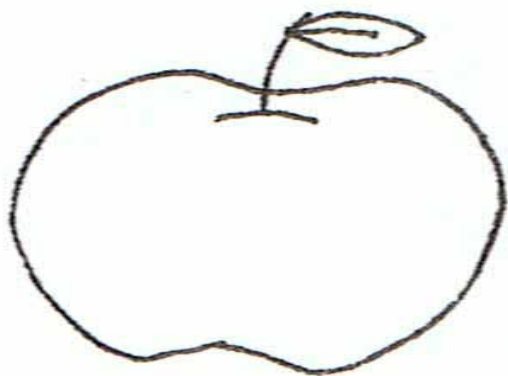
事例 2

二語文で叙述する
(応答機能)

子どもの実態(B)

- 知的障害特別支援学校中学部2年生(女)
- 自閉症
- IQ31(田中ビネー)
- 身の回りのものの名前はほとんどわかり、一・二語文で要求する
- 質問に答えることは困難で、ほとんどがエコーリアであった

使用したカード



場面	活動	目標となることば
色を塗る	T:紙を与える クレヨンを与える 「なにををするの」 C:色を塗る	クレヨンください 色を塗ります
絵を切り抜く	T:鋏の提示 鋏を与える 「なにををするの」 C:絵を切り抜く	鋏ください 絵を切ります
絵を貼る	T:糊の提示 糊を与える 「なにををするの」 C:絵を貼る	糊ください 絵を貼ります

結果

「 します」と答えられるようになった
 日常生活の中で、質問に答えられるようになった

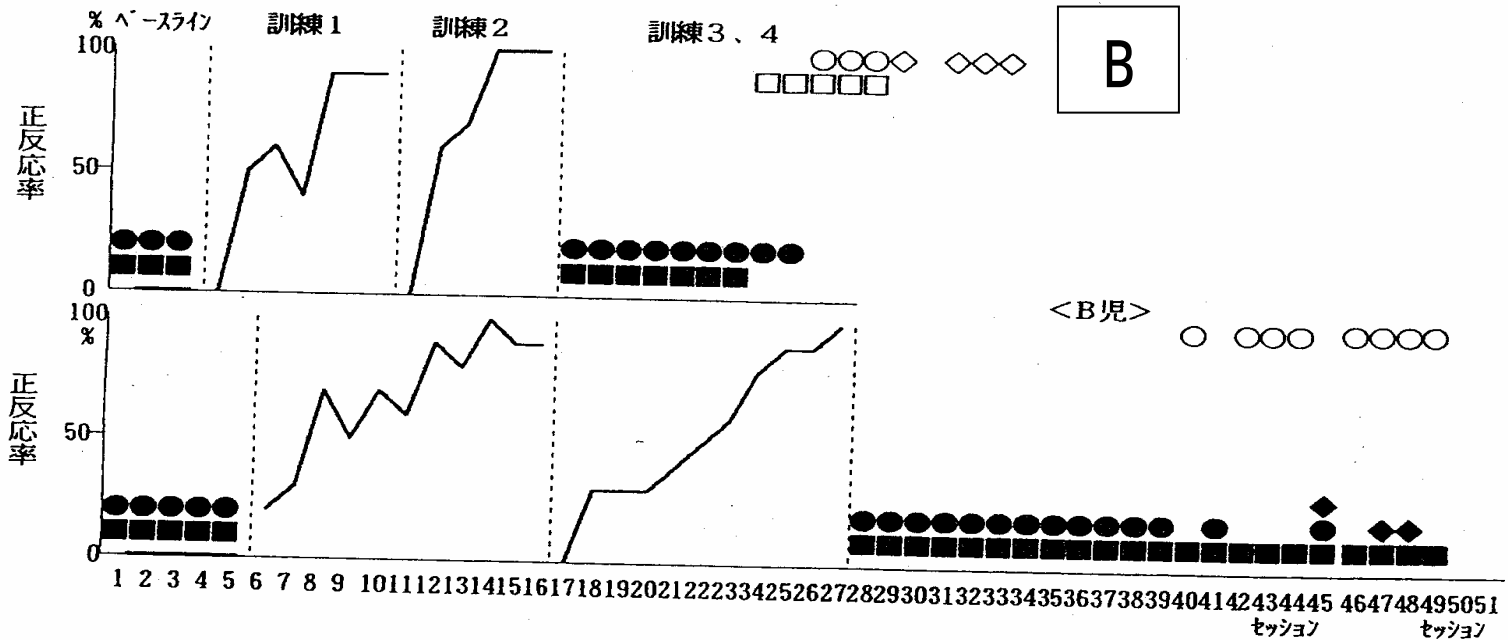


Fig.1 訓練1、2の応答的発話の正反応率と訓練3、4、5の発話状況

- 給食場面での正反応
- 歯磨き場面での正反応
- ◇ 日常場面での正反応
- 給食場面での誤反応
- 歯磨き場面での誤反応
- ◆ 日常場面での誤反応

言語指導プログラム適用事例



言語指導プログラムの特徴

- 感覚運動段階(0歳から2歳)の子どもを対象
- 50の文献から、この段階のコミュニケーション行動を選択・系統化
- 目標を系統化し指導内容に対応
- 効果的な指導技法を採用

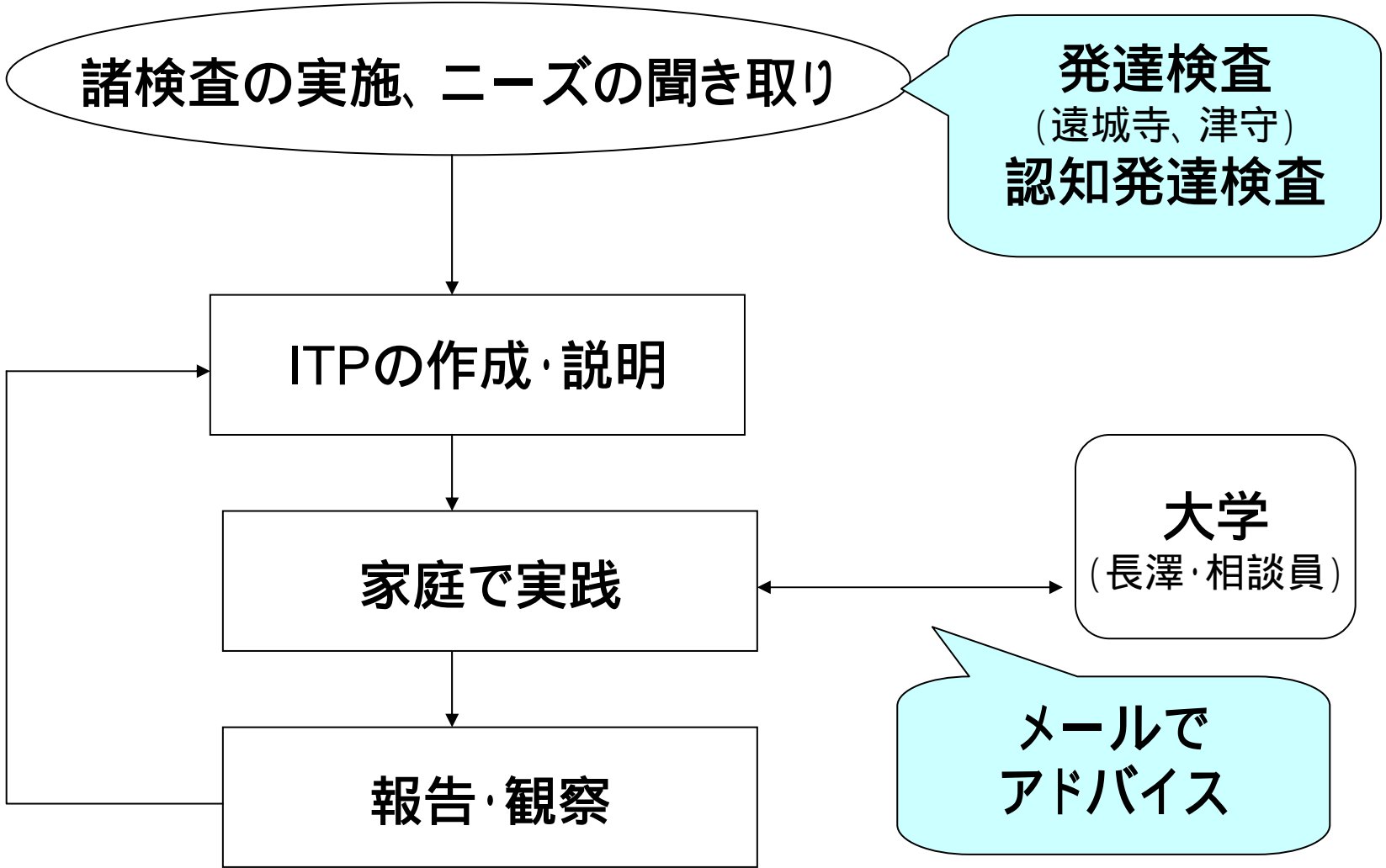
応用行動分析、自然な指導場面、指導者との相互作用の重視など

- 個別の指導計画作成が可能

目的と参加幼児

- 自閉症の幼児にこのプログラムを適用し、有効性を検証すること
- 幼児の実態
 - 1歳9ヶ月(男)
 - 医療機関にて自閉症と診断
 - 名前を呼んでも振り向かない、視線が合わない
 - ことばが見られない、指示理解が困難
 - くるくる回るなどの常同行動

別資料



プログラムによる指導実践の流れ(市相談センター)

語彙数

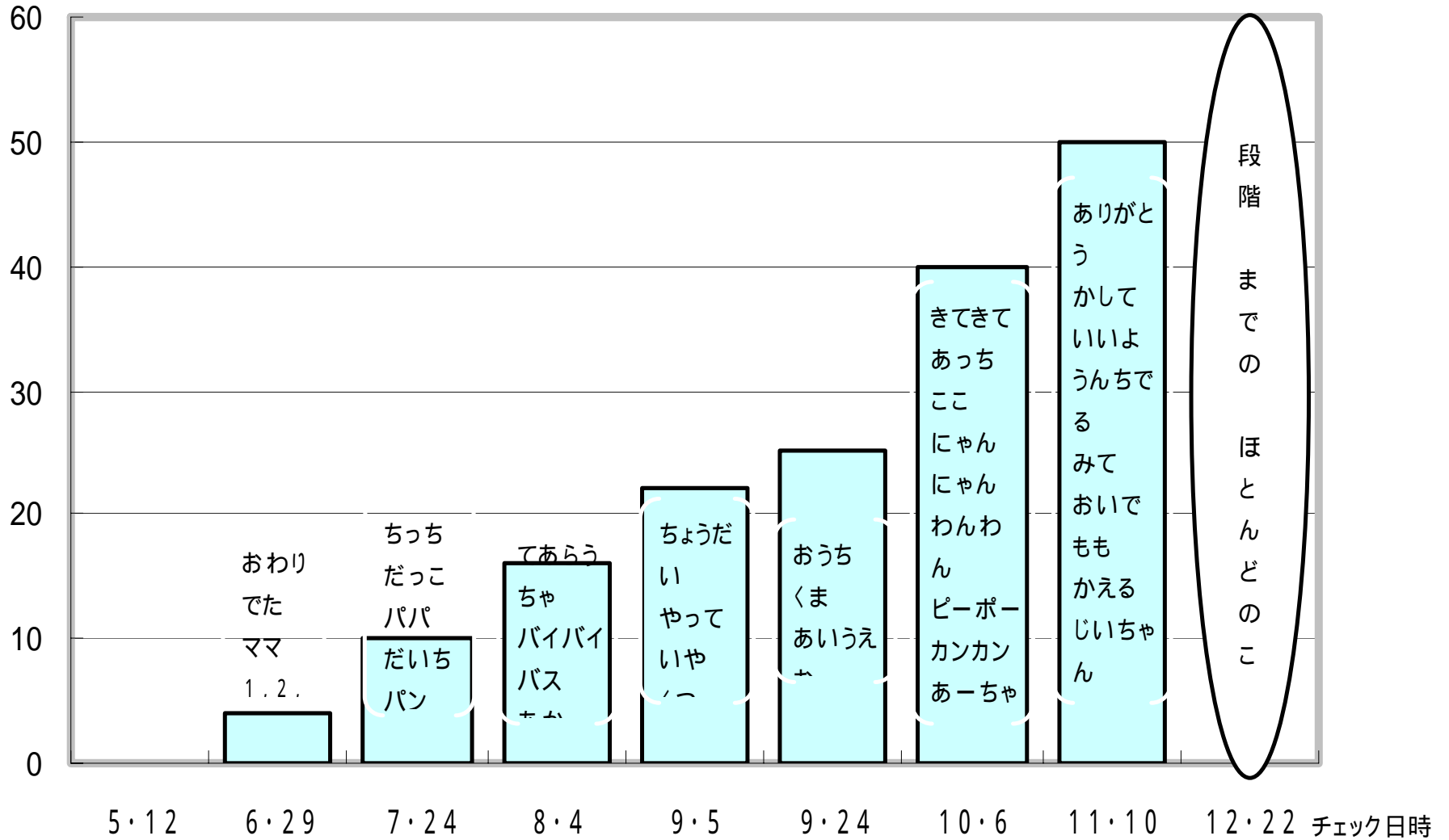




図2 観察された自発言語数(累積語彙数)

考察

- **プログラムの有効性**
 - 発達年齢の向上(発達指数が標準値)
 - 指導目標の獲得(段階 まで)
 - 自閉症の特徴が消失
- **課題**
 - 多数の参加幼児による検証の必要性
 - 客観的な記録(第三者による記録)
 - 支援体制(実態把握、計画、指導へのアドバイスなど)

コミュニケーションの機能

- 要求伝達  主体性
 - 自己の目的のために他者を動かすこと
- 相互伝達  関係性
 - 他者とかかわること自体が目的

要求 あいさつ
命名、叙述、応答などの機能へ

長澤研究室



<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~nagasawa/>

メールマガジン、特別支援教育・発達障害の情報、資料

新潟大学教育学部特別支援教育専修 長澤研究室ホームページ

平成22年1月22日更新

資料を更新(1/11)
研究室便りを更新(11/12)
チャレンジを更新(1/22)



このサイトは、障害のある子どもの教育にかかわる人、障害のある子どもの教育に関心のある人に対してさまざまな情報を提供するとともに、特別支援教育について意見を交換していきたいと考えています。このページには、次のような項目があります。

- | | | | | |
|------------------------|----------------------------|------------------------------|------------------------------|--------------------------|
| 研究室の紹介 | ● 研究室の取り組み | ● 授業の紹介 | ● 研究業績、論文の紹介 | ● 講演会・資料 |
| 研究会情報 | ● 研究室便り | ● 質問等 | ● 言語指導法・研修会 | ● 著書紹介 |
| 連リンク集 | ● メールマガジン | ● 新大チャレンジルーム | ● お問い合わせ | ● 研 |
| 会専用資料 | | | | |

[長澤研究室の取り組み\(平成21年4月1日\)](#)